

施設の短期中期のサービス向上への取り組み

1. 社会福祉法人として、利用者の満足を追求する
 - 1) 利用者に対する接遇（態度、服装、言葉使い等）を改めて見直す
 - 2) 快食・快眠・快便の取り組みを、個別ケアプランに反映する
快食に向けた摂食嚥下に対する取り組みについて、医師・家族と連携し、食事研究会を中心に全職員が共通した理解で進めていく。
 - 3) ケアプランに基づき、個別ケアの安定、生活の潤い向上に対して居室担当の意識を強化し、職員のレベルアップを目指す。
 - 4) 平穏な死についての共通認識、またそこにつながる日常生活のあり方について考える。
2. 社会福祉法人として、家族支援・地域支援の拠点となる
 - 1) 地域包括ケアの中核としてのあんしんセンターの更なる充実
地域住民に対する認知症への理解の推進、認知症サポーター養成講座、認知症カフェの協力
 - 2) かがやきプラザ相談センターとあんしんセンターの連携の推進
双方の役割分担と連携を確認し、重層的な相談体制を目指す
 - 3) 施設を拠点とした在宅サービスセンター機能の充実と発信
 - 4) 仕事と介護の両立（介護離職防止）を目指す、地域企業への支援
3. 社会福祉法人として核となる職員の定着・安心の実現
 - 1) 組織力の強化
職務職責の理解と遂行
 - 2) 働きやすい職場環境の見直し
連雀特有の課題の整理と改善への取り組み
 - 2) ストレスケアの取り組み
早期対応、早期支援・・・カウンセラー等専門職の活用
4. 社会福祉法人としての経営体制の確立
 - 1) 収入確保（稼働率、加算）
 - 2) 予算の執行管理と業務との関係性の理解
 - 3) 事業単位の収支安定の考え方の理解と事業責任者の意識化

施設の取組

1. 特養の稼働率を回復し、収支の安定を図る、看取り加算を取得する
2. 看護チームを定着化させ、リーダーを確立する
3. 建物2階を在宅サービスセンターの拠点とする
4. ショートステイ居室を特養へ転換する
5. 法人再発防止対策会議と連動し、危機管理体制を見直す

